

TEIKA

Teikyo University of Science

ニュースレター 2011 第24号

いのちをまなぶキャンパス



帝京科学大学

《巻頭レポート》 お化け煙突の歴史 —スーパー堤防から望むモニュメント—

- ◇ 教員の活動報告
- ◇ 学生なんでも相談窓口
- ◇ 新任・退任教員の紹介
- ◇ 大学祭のお知らせ



特集 学生のサークル活動と地域の交流レポート



(上)遊歩道はカラフルに整備され、鮮やかな芝生の斜面とともに、自然災害からも街をしっかりと守る堤防となっております。



(右)煙突がどのような歴史をたどってきたのかを紹介するプレートも設置。地域散策の興味をそそります。



お化け煙突の歴史

—スーパー堤防から望むモニュメント—

千住キャンパスがある場所には以前、千住火力発電所という国民の生活を支えた施設があったのです。その名残の一部がモニュメントとして再生されました。

千住の地の歴史を垣間見る。

大正15年1月から昭和38年3月までの間、千住キャンパスが建設される40数年前のこの地には、かつて国民生活を支えていたエネルギーを作る『千住火力発電所』がありました。

千住火力発電所は高度成長を支え、大勢の労働者で街も発展したそうです。そして発電所の老朽化と代替エネルギーの進化により使命を終えた後は、足立区立元宿小学校にその地を譲りました。シンボルであったお化け煙突も解体されましたが、一部は校庭の滑り台として姿を変え、歴史を物語ってきました。

小学校が廃校となったあと、本学の千住キャンパスが竣工。小学校解体時に残った巨大煙突製の滑り台を別の形で残すため、『お化け煙突モニュメント』として再生されたのです。

発電所の写真やプレートを飾り、4本あったという巨大煙突をミニチュアで再現したことで、当時の様子が偲べれます。

今後は、本学と千住の発展を見守るランドマークとして、長く愛され続けてほしいと思います。

堤防も整備され景観は最高。

隅田川の堤防部分も長い工事期間を終え遊歩道としてリニューアルされました。千住キャンパスの中庭から続くこの遊歩道は、自然災害発生時には水害から街を守るスーパー堤防としての役割を担っています。

近い将来、都会の喧噪を遠くに眺めながら、ゆったりとした下町の風景とともに通学できるようになるでしょう。

来年5月下旬に開業が発表された東京スカイツリーも、隅田川の向こうに望める絶好のロケーション。千住キャンパス本館のエントランスと合わせて広く自慢できる、本学の新たな『名所』の完成です。

授業に通う学生たちと、周辺住民の皆さんの憩いの場所に、また卒業生の皆さんの思い出の場所として、千住キャンパスは街の歴史とともに歩んでいきます。



(中上)千住キャンパスになる前は小学校でした。その記念碑も隣に並んでいます。

(中下)無数に打たれたリベットが、80年間の過去の先端技術を物語ってくれます。

(下)千住キャンパス本館全景とスーパー堤防。





新しいランドマーク お化け煙突モニュメント ～名前の由来～

火力発電所にあった煙突は、かつて『お化け煙突』と呼ばれていました。その煙突は実際には4本ありましたが、時には3本、2本、1本に見えました。これは、4本の煙突が薄い菱形に配置されていたため、見る角度によって煙突の本数が変わったのです。

これが名前の由来になりました。

現在では勉学の合間のひとときを、ゆっくりとリラックスさせてくれる場所となっています。火力発電所の煙突からその歴史を伝える、千住キャンパスの新しいランドマークです。

(下) 当時の煙突写真。
縮尺20分の1のモデルで煙突の見え方を体験してください。



学生のサークル活動と地域の交流レポート

第2弾

本学には現在、90を超える課外活動団体があり、それぞれが目標を持ち、地域や学外との連携を図りながら独自の活動を展開しています。今回は、その第2弾となります。

FEETS 上野原キャンパス

(顧問：小島 尚)



「FEETS大会」という、参加者でチームを作って優勝を目指す試合は年内一番の盛り上がりです。



学内で募金活動を行っています。

私たちはバスケットボールサークル^{フィーツ}FEETSです。協力的で個性豊かな140人が在籍している大型サークルで、週2回活動しています。「楽しむサークル」をモットーにバスケットボールを通して、人との繋がりの大切さ、自分自身の在り方について学んでいくことを目的としています。毎月さまざまなイベントがあり、その中でも「FEETS大会」という、参加者でチームを作って優勝を目指す試合が一番の盛り上がりを見せ、みんな心からバスケットボールを楽しんでいるのがわかります。また東日本大震災復興に向けて、何か私たちにできることはないかと考え、支援金の募金活動を4月から開始しました。これは、いろいろな地域からたくさんの方が集まってくる大学だからこそ出来る活動です。具体的には学生一人一人のネットワークを最大限に活かすことで支援金の募金活動を広げていこうというものです。学生にしかできない、学生ならではの活動にしたいという想いがきっかけで始め、今では学内だけでなく上野原市のさまざまな企業やお店の中に募金箱を設置させていただいています。これも地域との連携の素晴らしさ、繋がることの大切さを確認できる機会であると考えています。一人から二人へ、二人から四人へ順次ネットワークを広げていき最終的には日本を繋げる可能性もあると感じています。現在も活動途中であり、これからも被災地の方々や復興に向けて微力ではありますが応援させていただき、支え合っていきたいと考えています。

(生命科学科 白濱 大援)



子ども向けの工作教室に指導員として参加しています。



ボランティアサークル

(顧問：小池 和男)

千住キャンパス

昨年11月に発足し、現在18名で活動しています。ボランティアの内容・対象等の制限はせず、さまざまなことに挑戦し、経験することを目的としています。活動自体は任意参加で、事前にメールリスト等で出欠の確認や活動の内容・日時・場所等の詳細を連絡するというシステムをとっています。また、月に最低1回、昼休みを利用してミーティングを行っています。こちらは原則全員参加です。

ボランティア活動の現状は、まだまだ機会に恵まれず、月2回程度にとどまっていますが、学内で東日本大震災募金活動を行ったり、千住の景観美化活動に参加したり、子ども向けの工作教室に指導員として参加したりと、学内外を問わず幅広く活動しています。地域の方との交流も深まり、「ありがとう」の言葉をかけていただく機会も増えました。これからは月4~6回活動していけるよう頑張ります。そしていろいろな活動をして、さまざまな人と交流していけたら...と思っています。これからも立派なボランティア活動団体となれるようやっていきたいです!!

(児童教育学科 松本 頌子)



部員の半数以上が未経験者ですが、数か月で乗りこなせるくらい上達しています。



地元の小学校でのふれあい活動を行っています。

馬術部

上野原キャンパス

(顧問：花園 誠)



馬術部は、上野原市西原地区にあるヒロ牧場を拠点に活動しています。オーナーのヒロさんの指導のもと、馬の基本的な扱い方をはじめ調馬索のとりかたや騎乗についての技術を学んでいます。部員の半数以上が未経験者ですが、始めてからわずか数か月で乗りこなせるくらい上達しています。普段の活動内容は、飼い付け(餌やり)・手入れ・騎乗・馬房掃除などが中心ですが、夏には草刈りや畑仕事、冬には雪かきなどもしています。また、年に3～4回行われている牧場主催の競技会に参加し、会員の方と一緒に日ごろの活動の成果を発揮します。競技会では、決められたコースの横木をまたいだり、障害を飛び越したりします。

地域貢献活動では、動物介在教育研究会と合同で地元の小学校でのふれあい活動を行っています。具体的な内容としては、小学校1・2年生を対象に引き馬を行っています。その他に西原地区の伝統行事であるふるさとまつりへの出店、藤尾地区の伝統舞踊である獅子舞への参加を中心に、地域の方々と積極的に交流をしています。

牧場での活動を通じて、ここでしか体験できない多くのことを学んでいます。
(アニマルサイエンス学科 鈴木 真理)



学生と商店街の方々とのよい意見交換の場を設けさせていただきました。



イヌノメ報道研究会

(顧問：藤永 徹)

千住キャンパス



新入生向けのサークル説明会の司会進行を行っています。

こんにちは、私たちイヌノメ報道研究会は“学内の事をもっと知ってほしい”“情報発信の場になりたい”という思いから昨年度設立されたサークルです。主な活動内容は、学内新聞の発行、新入生向けのサークル説明会などのイベント計画や、司会進行、そしてイベントの撮影などです。昨年は足立区の方から、「大学周辺にある商店街を巡る街歩きに参加してみませんか」というお誘いを受け、学生にとって利用しやすい商店街とはどういうものか、などの意見交換の場を設けることができました。

このサークル活動を通して、文章や写真だけで分かりやすく内容を伝える事や、イベントの計画、たくさんの人の前で話す事の難しさを学びました。そして、学内新聞を熱心に読んでいる人を見かけた時や、イベントが無事に終わった時には、何ものにも変えがたい達成感やうれしさを感じます。これからも、さまざまな活動を通して、たくさんの人に学内の事を知ってもらう活動に励んでいきたいと思っています。

(アニマルサイエンス学科 上村 彩)



地域情報誌にも協力しています。

自分たちで土作りから種まき、
収穫までやる畑活動もしています。



昔ながらの自然と共生した生活の仕方など、
幅広くたくさんのお話を教えていただいています。

森のココペリ

(顧問：花園 誠)

上野原キャンパス

こんにちは、森のココペリです!! 私たちは、上野原キャンパスから車で40分ぐらいの所にある西原という山間地域で、畑をお借りして、自分たちで土作りから種まき、収穫までやる畑活動。炭焼きや干し柿作り、味噌作りなど、昔ながらの生活を地元の方に教えていただきながら一緒に作り上げる、里山体験。盆踊りやどんと焼き、*門男といった伝統行事に参加させていただくことでの、地域交流。それらの活動を通じて学んだ事を、外部の人へと伝える『人と人』『人と自然』をつなぐ、架け橋になる活動をしています。

西原はとても素敵な所で、きれいな自然と優しい人々にかこまれています。私たちはそこでこれらの活動を通じて昔ながらの自然と共生した生活の仕方を学んだり、おいしいさんおばあさんとお話して、郷土料理から戦時中の話まで、幅広くたくさんのお話を教えていただいたりしています。また、現在は行われていない文化としてあったお茶作りなどを、地元の方たちと一緒に復活させたりするなど、その伝承を行おうという活動もしています。

あるべき自然。自然がなくなったら、動物はもちろん、人だって生きてはいけません。昔の日本。田舎、里山の暮らし。もしかしたら、今よりもっと『共に生きて』いたのでは…、空も山も川も森もずっとそばにあってほしい。そんな思いをもって、私たちは活動しています。

(自然環境学科 神庭 友人)

※門男(かどおとこ)とは、毎年1月のどんと焼きに合わせて行われている伝統行事で、丸太の皮を削って男女それぞれの顔を描き、玄関に飾り五穀豊穡と家内安全を願うものです。

足立区の子供達を対象に
自然体験活動を実施しました。



毎回、上野原の子供達とは
違った様子が見られます。

風の子フ～スケ

(顧問：小林 毅)

上野原キャンパス

環境教育研究部「風の子フ～スケ」は今年で設立7年目を迎える団体です。

『自然を守るためにはどうすればいいんだろう…』

そんな問いに私たちは1つの答えを出しました。

『みんなに自然を好きになってもらえばいい!!』

好きなものを守りたいと思うのは自然なこと。風の子フ～スケは自然を好きになってもらえるよう、野外での自然体験や室内での展示を中心に活動しています。

普段は上野原市内の小学校を中心に活動しています。中でも上野原小学校の1年生には春の裏山探検、展示、秋の裏山探検、クラフト教室と、年間を通して活動を行っています。子ども達の反応はさまざまです。虫が苦手な子が虫に触れるようになった、虫が好きになった、という場面がよく見られます。

昨年度から、足立区の小学生が上野原に来る遠足にも参加しています。普段、自然に触れる機会の少ない足立区の子供達は、毎回、上野原の子供達とは違った様子が見られます。上野原の魅力が伝わったようで、「また来たい」「ずっとここにいたい」「田舎っていいなあ」などの感想を聞くことができました。

また、甲府市にある山梨県立科学館で毎年開催される『青少年のための科学の祭典』にも参加しています。小学生だけでなく、小さな子ども、中学生、親子、お年寄りの方など、幅広い年齢層を対象とした展示を行います。中には上野原市から来てくださる方もおり、他の活動でお会いした方もおられ驚きました。これまで続けてきた活動を大切にしながら新しい活動の場をさらに広げ、1人でも多くの人に自然の魅力を伝えられるよう、これからも活動を続けていきたいと思えます。

(アニマルサイエンス学科 阿部 志保)

動物園研究部

企画・実行をしている「おえかきっず!」
「たま☆スター」というイベントを行っています。

(顧問：石田 ^{おさむ} 戦)

千住キャンパス



両生爬虫類館の飼育員さんについて、
展示場の清掃や給餌を行っています。

私たち動物園研究部は、上野動物園での飼育実習とイベントの運営、多摩動物公園での教育普及活動を行っています。

上野動物園では、西園にある両生爬虫類館(ヒバリウム)内で飼育実習と「ふれあいコーナー」というイベントの準備・運営をしています。飼育実習では、学生が担当の飼育員さんについて、ワニやカメといった両生類・爬虫類の展示場の清掃や給餌をします。「ふれあいコーナー」は、両生爬虫類館で飼育されているヘビやトカゲと直接触れ合えるイベントで、毎週日曜日に行われています。ここでは開催場所の設置や列の整理、呼び込み、動物の解説といった役割をします。

多摩動物公園では、昆虫園本館で教育普及活動を中心に実習をしています。「おえかきっず!」と「たま☆スター」という動物園研究部が企画・実行しているイベントがあります。「おえかきっず!」では、子ども達に動物の絵を書いてもらい、動物のことをより知ってもらうことを目的としています。「たま☆スター」は、多摩動物公園にいる日本の動物を対象としたクイズラリーです。イベントの前には打ち合わせや対象動物の勉強、ポスター作りなどを行っています。

私たちが上野動物園や多摩動物公園での活動の際にうれしいと感じたことは、たくさんのお客さんが温かいお声を掛けてくれたことです。

いつもたくさんの方が「がんばってね」と応援してくれました。中でも印象に残っているのは、帝京科学大学のアニマルサイエンス学科に入学したいという中学生くらいの女の子の話です。私たちの活動に興味を持っていて、憧れだと言ってくれたことがうれしかったです。(アニマルサイエンス学科 市川 彩子)

↓平井先生の発表の様子です。



↓ジンベエザメが泳ぐ
大水槽のバックヤード風景です。



ジンベエザメが泳ぐ大水槽を
表から見学しました。

沖縄体験記



私は魚の生態や形態についてとても興味があり、水族館でボランティア活動をしています。また、研究室では投薬や飼育条件の変化によるニシキゴイの生殖腺の変化について研究し、生物の性について学んでいます。私は2011年2月に、3泊4日で沖縄の琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設へ同行させていただき、同センター共同利用研究会と美ら海水族館のバックヤード見学に参加しました。研究会では主に動物の性決定機構がテーマとなっており、それぞれの先生方が行っている研究についての成果が発表されました。普段私たちの研究室ではニシキゴイを使った性の研究を行っていますが、ニシキゴイとは別の魚類、両生類、哺乳類などを用いた研究発表もありました。それぞれの生物たちの性についての研究結果には、私たちが扱うニシキゴイとの類似点もあれば相違点もあり、この研究会に参加したことにより新たに知識を得ることができ、さらに自分の中にまだ足りなかったものを見つけることもできました。美ら海水族館でのバックヤード見学ではジンベエザメが泳ぐ巨大水槽の構造や深海の環境を作り出すため圧力を生む巨大な装置など、他の水族館では見ることができないものを実際に自分の目で見て、とても貴重な体験ができました。

(生命科学科生命コース〈平井研究室〉4年 田中 駿也)

私の教育

～つかずはなれずそして自主性へ～

医療科学部 理学療法学科

講師 奥 壽郎

学生が、理学療法士として社会にデビューするのは並大抵のことではありません。入学→医療系専門知識取得→理学療法専門知識取得→臨床現場での実習→卒業、そして国家試験に臨みます。私は実技系の講義を担当することが多く、最低限の知識、技術を身につけさせなければなりません。決められた時限数では足りないのは明白です。しかし、学生はある時点から、自主性をもち自分達でグループ学習で教員を利用しながら進めていきます。いかに実技の講義で学生を活性化させるかがポイントになります。「教科書にはない臨床現場でのイベントを語る」「学生同士の練習時には必ず全員を観察する」「学生との有意義なディスカッションは全員で共有する」、そして「時には“笑い”で場を作る」、これを「つかずはなれず」で講義に取り入れます。しかし、まだまだ創意工夫が必要です。



研究室の学生とともに

こども学部 こども学科

准教授 羽田 行男

4年生になったこども学科の1期生たちは、数人ずつ研究室に配属され、各自のテーマに沿った研究を進めています。8月には、学科内での卒業研究の中間発表が無事終わり、いよいよ秋からは研究も佳境に入ります。



そして、後期からは、新たに3年生たちが研究室に配属されます。すべての実習を3年前期で終え、「これでやっと、自分のやりたいことに専念できる」と、大学生の後半のスタートに、胸をふくらます学生の声を先日耳にしました。さて、わが研究室には、どのような関心事を抱いた学生が加わるのか、4年生の学生ともども楽しみにしています。

子育てが順調にしているかどうかは、それを通じて、親自身がどれだけ育てているかを見ればわかります。同じことを教育に当てはめると、学生とともに教師自身がどれだけ成長できるかが、ひとつの目安になりそうです。ただし、学生の伸び代の方がはるかに広いかもしれないのですが。

生き物の性の不思議

生命環境学部 生命科学科

准教授 平井 俊朗

われわれ生き物の多くは有性生殖によって子孫を残します。有性生殖によって父親(精子)と母親(卵子)の遺伝子を混ぜ合わせることで、子孫には多様性が生まれ、これが生き物の進化の基となってきました。私の研究室では生き物が子孫を残すためにどのようなやり方を取っているかについて様々な角度から研究を進めています。特に脊椎動物の中で最も種類が多く、生殖についても様々な進化を遂げている魚類を中心に研究を行っています。彼らの中には「ファインディングニモ」で一躍有名になったクマノミのように、一生のうちに性別が変わるもの、アンコウのようにオスがメスの体の一部になっ



てしまうものなど、多種多様な方法を編み出しており、その巧みさには驚かされるばかりです。このような生き物の巧みな性について体感してみたい皆さんをお待ちしています。

植物ときのこの共生

生命環境学部 自然環境学科

教授 岩瀬 剛二

私の研究テーマを一言でいうと、植物と菌類(きのこ)の共生「菌根共生」の実態の解明です。菌根とは植物の根に菌類が共生してできる特有の構造で、ほとんどすべての陸上植物の種に見られます。この菌根共生の実態を解明することで3つの方向性の研究を進めています。

- 1) ギンリョウソウなどの無葉緑植物やラン等の森林の林床に生育する希少植物の保全や増殖に関する技術の開発。
 - 2) 乾燥地や塩害地等のストレス環境に耐えるような菌根菌を探索し、植林等の生態系保全への貢献。
 - 3) マツタケなどの、高価な菌根性食用きのこの人工栽培技術の開発。
- 研究のモットーは楽しく面白くです。



オオウメガサソウを手に持つ筆者。

あそびを通して 発達障がいの子どもの発達を促す

医療科学部 作業療法学科
教授 石井 孝弘

自然の中で動物とともに過せることを願いつつ、本年4月に上野原キャンパスに着任しました。私の専門は発達障がいに対する作業療法です。主に玩具や遊びの治療的な意味合いを分析し、発達障がいの問題に対してかかわることで治療効果を得ようとするものです。

中でも自然と動物と関わるのが子どもたちの発達を促すという視点から、乗馬活動を作業療法の一環として取り入れています。日本ではまだまだの分野ですが、アメリカなどでは乗馬療法専門の施設があります。発達障がいを医学的な視点から分析し、乗馬活動で得ることのできる種々な感覚刺激、例えば馬に乗ると前後左右さらには回旋^{かいせん}などの空間での動きを感じ取ることができます。触れてみると温かく心地よいものです。



テンブルグランディン氏と筆者。

これらの刺激を治療に用いることで、日常的な問題の解決をはかります。このとき子どもたちは笑顔で答えてくれます。この笑顔こそが私の「頑張ろう!」の原動力になっています。実体験の伴う授業の展開を目指して学生たちと楽しく学んでいこうと思っています。

「小児肥満」の 研究から感じること

総合教育センター
助教 川田 裕樹

現在、私は小児肥満の進展予防のための通信プログラムを行い、その効果を検証しています。子どもの場合、過度の食事制限は成長を妨げてしまう恐れがあるので、プログラムでは間食や夜食などは控えながらも3食きちんと食べ、できるだけ運動によってエネルギーをたくさん消費するよう指導しています。また、子どもの生活習慣は親の影響を大きく受けるので、家族ぐるみでプログラムに取り組むよう促しています。

この研究を通して感じることは、結局は「適度な運動」「栄養バランスの良い食事」「早寝早起き」といった健康にとって「当たり前」のことを毎日続けることが大事なのだということです。ですが、これがすごく難しいのです。肥満の子どもに限らず、この先大学を卒業して親になっていくであろう本学の学生にも、自分の食習慣、運動習慣について振り返らせることができるよう、教育活動にも取り組んでいきたいと思っています。



山梨県高校総体における 広報及び救護活動

医療科学部
柔道整復学科 学科長・教授 小野澤 昭雄

山梨市キャンパス、柔道整復学科では、本年5月7日、11日、12日の3日間、山梨県高等学校総合体育大会『陸上競技の部』において救護活動を行いました。

3日間という長期間、また、悪天候のなか選手は極度の緊張感や疲労と戦いながらレースに立ち向かっていました。その選手の力を120%最大限にサポートするのが、今回のわれわれ柔道整復学科の目的でした。

負傷者が出てほしくないのが救護班の願いですが、現場は負傷者が続出!! そこは、外傷の治療を得意とするプロ集団、負傷者たちに次々と処置を施し、スタート地点に向かわせることができました。スポーツ現場における柔道整復師本来の姿を知ってもらい、高校生の役に立った3日間でありました。今後も継続して活動を行います。



決勝レースに備えての指導及び、テーピング施行。選手は、大会レコードを叩き出し、優勝しました。

「動作の様式化」ということ

生命環境学部 アニマルサイエンス学科
教授 滝坂 信一

私たちは、生後少しずつ「共通の身体の動き」を身につけていきます。それは、その社会(文化)に形成されるもの、強い愛着の関係にある相手によって形成されるものがあります。多くの人たちは、人々と一緒に過ごすことを通じ、意識することなくいつの間にかこういった動作の様式を獲得していきます。この共通の動きを持つことによって、私たちはお互いを理解し合ったり共感することができます。

他方、障害によってそのような動作の獲得が難しい子どもたちがいます。この子どもたちに、強い関心を持ち意欲的に取り組むことができる「馬をパートナーとした活動」を通じ、質の高い学習機会を提供していく研究と教育に取り組んでいます。



「ぼくたちは仲間だ。」

学生なんでも相談窓口

～学生一人ひとりの悩みや相談事を手厚くサポート！！～

本学には、学生生活支援を目的とした7つの学生相談窓口(総称「学生なんでも相談窓口」)があります。

下図が、7つの相談窓口の全体を表したマップです。在学生たちはこのマップを参考にしながら自分の悩みや相談内容に合った相談窓口を尋ね、各窓口の教職員からアドバイスを受けています。いずれの相談窓口も学生一人ひとりの相談に対して「マンツーマン」で対応します。学生一人ひとりの「どうしよう困ったなあ」「だれに相談すればいいのかなあ」といった悩みにも親身になって対応する「学生なんでも相

談窓口」は、窓口を利用する在学生たちからの満足度も信頼度も高いものとなっています。

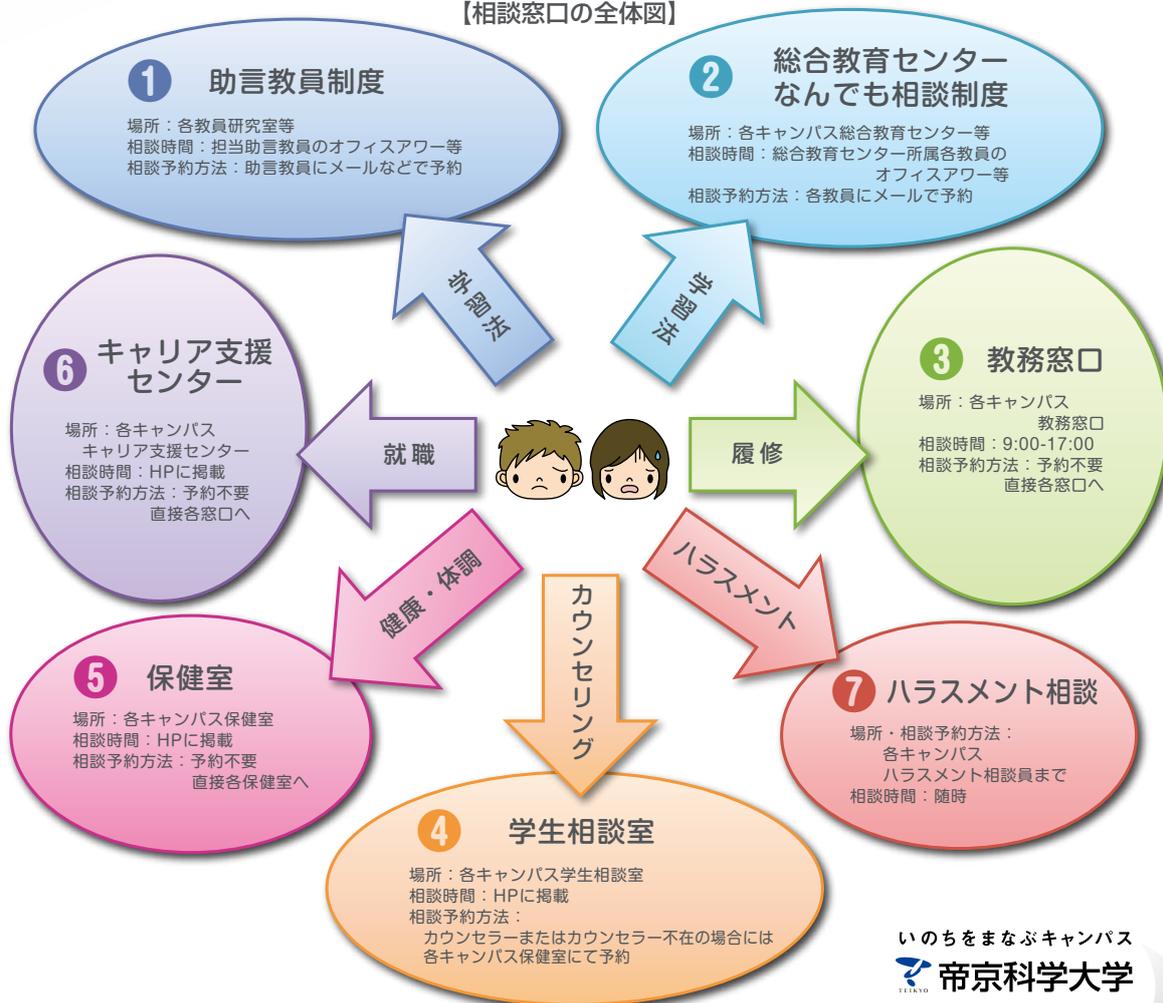
もし在学生の方で、悩みや相談をだれかに聞いてもらいたいのに、まだ「学生なんでも相談窓口」を利用していないのであれば、気軽にこれらのうちのどこかの相談窓口をたずねてみてください。「学生なんでも相談窓口」が入学時から卒業まで、悩みを抱える学生一人ひとりの実りあるキャンパスライフを手厚くサポートします!!

(総合教育センター 助教 榊原 健太郎)

いのちを学ぶキャンパスには、 学生生活を支援する7つの相談窓口があります！

- ① **助言教員制度** … 学科専門科目・進路など
- ② **総合教育センターなんでも相談制度**
… 共通科目・教職等資格関連科目など
- ③ **教務窓口** … 履修科目の登録の仕方・奨学金など
- ④ **学生相談室** … こころの相談・カウンセリングなど
- ⑤ **保健室** … 健康・体調など
- ⑥ **キャリア支援センター** … キャリア形成・就職活動など
- ⑦ **ハラスメント相談** … 各種ハラスメントなど

【相談窓口の全体図】



いのちをまなぶキャンパス
帝京科学大学

キャリア
支援センター
だより

みなさんの就職活動を支援していきます

平成23年4月より、千住キャンパスと上野原キャンパスの就職事務室を「キャリア支援センター」に名称変更しました。スタッフ一同一層張り切っています。合同企業説明会へのバスツアーや「TEIKA 就職塾」など企業担当者と接する

機会や自己研鑽・自己理解への支援も積極的に行っています。また、職業選択や就職活動全般に関する質問・相談にも応じています。どうか、お気軽にキャリア支援センターにお立ち寄りくださり、ご活用ください。みなさんの就職活動を支援していきます。

新任教員の紹介

H23.4.1 着任

上野原キャンパス

〔生命環境学部〕

岩瀬 剛二

自然環境学科／教授

和田 龍一

自然環境学科／講師

滝坂 信一

アニマルサイエンス学科／教授

〔医療科学部〕

跡見 友章

理学療法学科／助教

石井 孝弘

作業療法学科／教授

安藤 博文

柔道整復学科／教授

小島 尚

柔道整復学科／教授

〔こども学部〕

乙部 はるひ

こども学科／講師

山梨市キャンパス

〔医療科学部〕

井上 聡

柔道整復学科／准教授

千住キャンパス

〔生命環境学部〕

桑原 尚夫

生命科学科／特任教授

近藤 保彦

アニマルサイエンス学科／准教授

〔こども学部〕

木場 有紀

児童教育学科／講師

〔医療科学部〕

芹田 透

東京理学療法学科／講師

有賀 雅史

東京柔道整復学科／教授

大石 徹

東京柔道整復学科／講師

成田 英記

東京柔道整復学科／特任助手

〔医療科学部〕

泉 キヨ子

看護学科設置準備室／教授

高橋 景子

看護学科設置準備室／教授

定村 美紀子

看護学科設置準備室／講師

吉田 千鶴

看護学科設置準備室／助教

退任教員

H23.3.31 退任

〔生命環境学部〕

桑原 尚夫

生命科学科／教授

林 剛

自然環境学科／教授

浅賀 喜与志

自然環境学科／教授

〔生命環境学部〕

内藤 順平

アニマルサイエンス学科／教授

高橋 英司

アニマルサイエンス学科／特任教授

峯崎 友香里

アニマルサイエンス学科／助教

〔医療科学部〕

木暮 嘉明

理学療法学科／教授

吉澤 光一

理学療法学科／講師

谷戸 文廣

柔道整復学科／教授

〔医療科学部〕

安川 五生

柔道整復学科／講師

田中 三久

柔道整復学科／講師

〔こども学部〕

浅倉 恵子

こども学科／教授



平成24年 4月 開設

医療科学部 看護学科

【特徴】

総合大学で学ぶメリットを活かし、科学的思考に基づいた看護を臨床・地域社会に還元できるようになる看護専門職業人を育成することを目指します。

【キャンパス】 千住キャンパス（東京都足立区千住桜木）

【入学定員】 80名

【お問合せ先】 帝京科学大学 広報室

入試専用ダイヤル 0120-248-089

大学祭

今年も新しい・楽しいが盛り沢山!!
上野原キャンパス・千住キャンパス
それぞれの大学祭をご紹介します。

★10/8(土)-9(日)開催!!

上野原「科大祭」



はじめまして、上野原キャンパス大学祭実行委員会 委員長の富岡祐太郎です。
今年の科大祭のテーマは、「飛躍」です。テーマを飛躍に決めたのには二つの理由があります。一つは、昨年の科大祭が第20回という記念の年で大いに盛り上がりました。今年は第21回になりますが、一つの区切りをつけ、もう一度「第1回」という気持ちで科大祭を作っていきたいと考えました。二つには、今年の3月、東北地方を未曾有の大震災が襲いました。「飛躍」というテーマには、日本が一丸となってこの震災から立ち上がってほしいという願いも込められています。

今年の科大祭は、飛躍というテーマに相応しく、新しい企画が盛り沢山です。特に注目なのは、新企画のかき氷の早食い大会とカップルコンテストです。また、学術企画として、本学の先生方による特別支援教育に関するシンポジウムも用意しています。毎年盛り上がるカマコンテスト、ビンゴ大会などの企画もあります。来場した方にはぜひビンゴ大会に参加していただき、豪華賞品を手に入れてもらいたいです。

是非とも今年の科大祭に足を運んでいただき、去年よりも飛躍した科大祭を見ていただきたいと思います。ご来場をお待ちしております。

(大学祭実行委員会 委員長 富岡祐太郎)



千住「桜科祭」

★10/30(日)の1日限り開催!!

こんにちは! 千住キャンパスの大学祭実行委員会 委員長 福徳剛己です!

千住キャンパスができて2年目ですが、今年から千住キャンパスでも大学祭を行うことが決まりました! 大学祭の名前は、キャンパスの地名の「千住桜木」の「桜」と「帝京科学大学」の「科」から桜科祭で「おうかさい」と読みます。開催日は10月30日の1日限りですが、第1回の記念すべき大学祭に是非お越しください! 開催時間などの詳細は本学のホームページをご覧ください。

第1回の桜科祭のテーマは、「Go!!!」です。勢いよくスタートを切りたいということで「Go」。「I」が3つあるのは学生の明るさ・活気・情熱を表しています。また、底抜けに楽しい・面白い・盛り上がる大学祭を作っていくという意気込みも「Go!!!」につながっています。

今年の目玉企画の一つとして「学術企画」というものを用意しています。本学の「いのちのちをまなぶキャンパス」というコンセプトのもと、各学科の先生たちが「いのち」に関わる企画を用意しています。その他、学生企画として女装コンテスト、ベストカップルコンテストを行います。第1回ということで不十分なところがあるかもしれませんが、実行委員同士仲がとても良く、愉快的なメンバーがお贈りする桜科祭に是非足を運んでみてください。

みなさまのご来場を実行委員一同、お待ちしております!

(第1回桜科祭実行委員会 委員長 福徳剛己)



今年から千住キャンパスでも大学祭を行うことが決まりました!
第一回の記念すべき大学祭に是非お越しください!

【編集後記】

近年、多くの大学が様々な変革を遂げていますが、変化を求めるあまり、過去から未来へ続く大学としての使命を失ってはなりません。高度な専門的知識と技術を身につけた、社会に貢献できる人材の育成は、大学に課せられた継続すべき重要な使命です。その使命を果たす現在の本学の特

徴のひとつに、学生が自ら課外活動や地域連携活動に参加することにより、実践的知識を育む姿勢があります。本号でも、学生たちがさまざまな活動に生き生きと取り組むようすを紹介しています。筆者は学生時代に課外活動に取り組んだことはありませんが、課外活動での経験は学生たちの将来におおいに役立つものと思います。(ニューズレター部会 渡邊 浩一郎)

発行人: 帝京科学大学 学長 冲永 莊八

〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1 TEL: 03-6910-1010 (代表)

帝京科学大学ホームページ URL: <http://www.ntu.ac.jp/> E-mail: tustnews@ntu.ac.jp

※ご意見、ご要望をお寄せください。

